

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGsの達成を目指し、Mastery for Serviceを体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
【知識・技能】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で用いられているAI等のテクノロジーが持つ機能や役割、実例などの基礎的な情報を自分の言葉で説明することができる</li> <li>・簡単なプログラムを使って実際にAIを動かすことができる</li> </ul>	
【思考力・判断力・表現力】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的課題について調べ、AI等のテクノロジー活用した解決方法を提案することができる</li> <li>・AIが人々、社会にとって正しく活用されるための倫理的判断をすることができる</li> <li>・テクノロジーが人間個人、社会に与える影響を考察することが出来る</li> <li>・上記事項について、他者に適切に提示/説明することができる</li> </ul>	
【学びに向かう力・人間性】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIや新たな技術開発、イノベーションについてより深く知ろうとし、それを用いて解決しようとする姿勢を持つことが出来る</li> <li>・社会的課題に向き合う中で、AIなどに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、人間の本来の生き方について追求することができる</li> </ul>	
下位学習目標	

授業日	4/23(火)	1 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回																								
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】② 本時の具体的な目標 ・「AI 活用人材」についての概観をつかむことができる ・Chat GPT がどのようなものでどう活用できるか考えることが出来る																										
時間 授業内容	10	前回の授業の振り返り ・思い：「世の中で AI についてどんなことが話題になっているのだろう？知りたい！」 ・1つの方法：「新聞には最新の話題のことが書いているから、それらから共通項を抜き出して分類してみよう！共通項が分かればキーワードが得られる！」 ・今回取った手法について 1) 帰納法(的手法) = 同じような事象を複数見つけ、その共通点から結論を導く手法 長所：新たな広い知識を拡張できる 短所：論理的に必ず正しい結論が導き出せない場合がある (エラー値、例外、当てはまらないものがある) 2) 協働ワーク 違う視点を持つもの同志が集まると多様な視点を得られる (グループ内、グループ間)																									
	80	関西学院大学工学部 巳波 弘佳教授による講義と Chat GPT のワーク 「急激な進化にあなたはどのように向き合うか」																									
評価方法	学びの記録の評価ルーブリック <table border="1" data-bbox="240 1077 877 1429"> <tr><td colspan="2"><b>観点1 知識</b></td></tr> <tr><td>A</td><td>論点をしっかりと整理して記述できている</td></tr> <tr><td>B</td><td>論点のある程度整理して記述している</td></tr> <tr><td>C</td><td>論点あまり整理して記述されていない</td></tr> <tr><td colspan="2"><b>観点2 考察</b></td></tr> <tr><td>A</td><td>得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる</td></tr> <tr><td>B</td><td>得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる</td></tr> <tr><td>C</td><td>表層的な感想や意見にとどまっている</td></tr> <tr><td colspan="2"><b>観点3 調べたこと</b></td></tr> <tr><td>A</td><td>知りたいと思ったことを自発的にいくつか調べた</td></tr> <tr><td>B</td><td>知りたいと思ったことを自発的に少し調べた</td></tr> <tr><td>C</td><td>調べていない</td></tr> </table>			<b>観点1 知識</b>		A	論点をしっかりと整理して記述できている	B	論点のある程度整理して記述している	C	論点あまり整理して記述されていない	<b>観点2 考察</b>		A	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる	B	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる	C	表層的な感想や意見にとどまっている	<b>観点3 調べたこと</b>		A	知りたいと思ったことを自発的にいくつか調べた	B	知りたいと思ったことを自発的に少し調べた	C	調べていない
<b>観点1 知識</b>																											
A	論点をしっかりと整理して記述できている																										
B	論点のある程度整理して記述している																										
C	論点あまり整理して記述されていない																										
<b>観点2 考察</b>																											
A	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる																										
B	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる																										
C	表層的な感想や意見にとどまっている																										
<b>観点3 調べたこと</b>																											
A	知りたいと思ったことを自発的にいくつか調べた																										
B	知りたいと思ったことを自発的に少し調べた																										
C	調べていない																										
宿題指示	学びの記録																										